

## 北海道とのほたて漁業に関する情報交換会

1. 日 時 平成16年1月28日
2. 場 所 北海道漁連
3. 出席者 北海道ほたて関係者 9名  
むつ湾 // 6名

近年ほたて漁業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

特に価格の低迷は、養殖並びに地まきほたて生産漁業者にとって生産額減少の大きな要因となっております。これは、青森・北海道共同じ境遇にあります。

今回の情報交換会は植村会長提案により両者の現況について協議、それぞれの置かれた状況あるいは現状改善の道を考える機会となるよう進められた。

ただし、今回の協議だけで改善策が出来る状況にはなく、今後もお互いの持ち回りで「年1回以上開催」する事を確認終了した。

価格低迷の大きな要因としては、①国内生産量の急激な増大、②景気の低迷、③輸出不振等である事は、関係者一同一致するものである。

特に生産量の増大はデフレ傾向の中、冷凍貝柱・生玉の製品市況の低迷が原貝価格を直撃、値下がりの最大の要因である。

今回、オホーツクの地まき生産量についても協議されたが、最大の関心事である生産調整は、放流済みの漁場（3年分）を持っている状況下では出来ない結論付け、消費拡大に力点を置いた対策に方向転換、基金の助成等による輸出拡大、宣伝事業充実等実施、事実国内・国外とも消費実績が伸び、製品在庫の払底になっている。

これらにより、今後徐々に製品価格の値上がり、原貝価格への反映を期待している。

又、ほたて貝は国際的にも（中国・チリ等）競争の時代となっており、製品価格が高騰すれば輸入増（IQ枠の危機）という危険な環境にある。

一方の噴火湾養殖ほたて貝は、約50%の減産見込みであり、原貝価格は値上がり状況にある。冷凍ボイル製品価格は700円台/1kgになる見込みで、順調な消費となるか注目されている。

オホーツクは完全に生産量でカバーする方針、価格は大幅には値上がりは期待できないし、2次加工製品も15年並の価格帯で生産流通している。

8万トンの陸奥湾ほたて販売では、生産情報等を的確に分析し原貝価格に反映出来るように努めたい。

尚、貝毒検査方法についてマウス検査方法でなく機械による検査方法で、国に働ける事を申し入れた。道漁連も同調、推進する方向で一致しました。

今回の情報交換会の開催は、ほたて漁業の持続的安定を目指すための第一歩として、大変意義深いものになりました。今後も情報交換会を通じてほたて漁業のあり方について、より良い方向付けが見出されることが期待される。



北海道ほたて関係者とむつ湾ほたて関係者との情報交換会風景